

COLUMN

鎌倉の猫事情 第五十七話



クウが入院して3日が経ち、獣医さんのもとを訪れると、先生は、「もう、大丈夫ですよ。毎日おとなしく良い子にしています」と、奥のゲージからクウを抱いて来てくれました。3日前には全身血だらけの傷を負っていたとは思えないほど回復し、傷口にも毛がふさふさと生えてまるで見違えています。先生は「もう家に帰って良いでしょう。但し…」と、しばらくは毎日通院して注射を打つこと、そして家では毎日かかさず薬を飲ませること、そうしないとせっかくの治療が効かないのだと言われます。私はお隣の鍵を預かっていることだし、通院は続けられるにしても、猫に薬を飲ませるのはなかなかの難題であることは、グーニーやスーピーで、経験済みです。はたと困り、先生に、クウが実は家を出していてお隣にお世話になっていること、これからクウが帰る家はうちではなくお隣なので、私は薬を飲ませる事ができない事などを、説明しました。「そうですか。投薬を平行して治療しないとなかなか直らないだけだね」と、ということです。その日はともかくお隣に忍びこんでクウを返しておき、夜、窓に明かりが点るのを待ち、ご主人を訪ねて報告しました。すると「僕は猫の扱いにそんなに慣れているわけではないけれど、姉ならなんとかできるかもしれません」と、いうわけで近くに住んでいるというご主人のお姉さんまで巻き込んでクウの治療にあたることになりました。それから毎日私はお隣へ忍び込み、逃げ出そうとするクウの首根っこを捕まえては獣医さんのもとへ通い、翌日クウを迎えに行くと、玄関の上がり口に、首尾よく薬を飲ませることができたこと、食欲は順調だのという置手紙があるという具合で、どうやら順調に数日が経ちました。夜、久しぶりに早い時間に窓に明かりが点くのが見え、私は新しい薬の袋を持ってドアを叩きました。「はい」と返事があり、ご主人を真ん中にすっきり元気になったクウと、あいかわらずお隣に居座っているすみれが私を出迎えました。クウは、私の顔を見るとまた怖いところへ連れて行かれると思うのか、ご主人の後ろに隠れようとします。ご主人も少し困った顔をされています。「元気になって、良かったねえ」とクウを覗き込むと、また少し後ずさりします。もう2回ほど注射した方がいいという先生の言葉を伝えると、ご主人は「もう、大丈夫ですよ。おかげで本当に元気になりました。もう充分です。ここまでにしましょう」と、言われます。「そうですね、そうしましょう」と、私も賛成しました。するとご主人は前々から用意してあったと見える封筒を手渡そうとします。どうやら治療代が入っているようなのです。「とんでもない…」と押し返すと、申し訳なさそうに「そうですか、ではこれで猫たちに何か美味しいものでも買ってあげることになります」と、封筒をしまいました。



Dark

闇に消える

誰かに、揺さぶられたような気がして目が覚めた。なんだか部屋の様子が変わる。頭上にひらひらするのが見える。…鳥だ。それは、ベッドの上を一回りすると、パソコンのデスクの上へ舞い降りた。不思議な鳥……それは、本当に不思議な鳥だった。全身が鮮やかな青色と銀色のグラデーションに彩られた羽で被われている。子猫に似た愛らしいくさで、まるで、お尻のところに大きな羽をつけた踊り子のように見える。目は赤味がかった金色で、不思議な生き物なのだ。私の目は、その不思議な鳥に釘付けになっていた。するとどこからともなく「くくくく……」押し殺した笑い声聞こえてきた。聞き覚えのある笑い声。姿は見えないけれど、いつもの悪魔だ。またか…あきれながらも、怒りがこみ上げてきた。「思ったとおりだ。何のつもりです！ これは一体…」「まあ、そんなに興奮しなさんな」と、人を馬鹿にした声とともに、デスクの横の椅子にゆったりと腰をかけた姿を現した。「ふん、今日はまあ立派に正装して…どこかにお出かけの途中なんでしょうね、いらを押し殺し、黒いマントに大きな鎌を手にした悪魔に精一杯のお世辞を言った。「いや、今日は君の所へわざわざ出向いて来たのだよ。僕の新しいパートナーも紹介したくてね、悪魔の使いというわけさ、ふふふ…」と、たちの悪い笑い方をしてその不思議な鳥を横目で見ると、鳥は目をきらりと光らせ羽を震わせて挨拶をしてみせた。「わざわざって…どうせ、好きにこの部屋を使ってるんだから、勝手にすれば…」「何、もぞもぞ言ってるんだい。君、どうだい、可愛いだろこの鳥は、ほら、ほら…」悪魔は調子づいて、鳥を手の甲に乗せて部屋を歩き回っている。「一体どこからその鳥を連れて来たんです？ どうせ、思い通りにならない人間に魔法でもかけたか、そんなところじゃないんですか？」と、怒りにまかせてつかかった。「ほっほお…言ってくるじゃありませんか？ 君はおとぎ話の読み過ぎですよ。その年になるまで、そんなことを信じているんだから、まったくおめでたい。悪魔に対するありきたりで平凡な人間の認識に過ぎんのだよ。馬鹿馬鹿しい」「そんなこと言っても、案外凶星なんじゃないんですか？ なんかかかんとか言ったって、やっぱり、実際悪魔なんだから、ああ、怖い怖い…」「し、失敬な！ 君とそんなくだらないおしゃべりをしている暇はない！ ほかほかしい…」悪魔の声はだんだんと小さくなり、その姿もうすぼんやりとして消えそうになっている。「ちょっと待ってくださいよ。違うなら違うで、ちゃんと説明して…」と、言う間にあの鳥とともに消えさった。なんだろう… それにしても、案外凶星なのかなあ…まさか… いろいろ思い悩みながら、いつの間にか眠りこけていた。



どうやら治療代が入っているようなのです。「とんでもない…」と押し返すと、申し訳なさそうに「そうですか、ではこれで猫たちに何か美味しいものでも買ってあげることになります」と、封筒をしまいました。私は、お礼を言い、念のためもう少し鍵を預らせて頂くことにして帰りました。クウは最後まで不安そうな顔で私を見送っていました。ほっとしたような、もう面倒が見られないと思うと寂しい気がします。クウとはもう、これが最後の別れのような気がしていました。

to be continued



THE MONTHLY
MILK HALL TIMES
MAY 2006
VOLUME 119
ISSUE 119

May
6 Saturday
7 Sunday



..... ANTIQUES

ミルクホールのアンティークショップが、
少し若返ってオープンしました。



店内が今までより30歳ほど若返った感じです。

大正ロマンの香りただよう懐かしさから

昭和初期の、気だるさと活気がみなぎる

混沌とした楽しさへ

新しいミルクホールのアンティークをお楽しみ下さい

新入荷情報

♠ 和洋家具

明治から昭和初期にかけて

主に日本で作られた和洋家具



明治時代帳場筆筒二段式 ￥128000

大正時代水屋筆筒二段式 ￥98000

昭和小学校机椅子set ￥23000

ガラスケース各種 ￥12000より

アンティークカフェチェア 特価 ￥10000より

小筆筒各種 ￥10000より

格子各種 ￥8000より

明治文机 ￥12000

本棚 ￥6800

昭和茶筆筒 特価 ￥9800

昭和丸椅子新入荷・文机・ちゃぶ台
裁縫箱・卓上本棚ほか

HISTORY

KAMAKURA・・・場所の記憶 4

鎌倉に暮らして20余年。おおらかな海と、険しい崖に囲まれた自然の要塞として恵まれた地形を持つ中世の記憶が色濃く残るこの地では、人々の死の痕跡があちこちに残されているのを感じずにはいられません。山のあちこちに残る山肌を掘って作られた鎌倉独特の祠は、中世の墓であったと言われていました。山道への散歩に出かけるとここかしこに石で作られた五輪の墓が誰が守るともなく当時のままに残されているのを見ることができます。それはすべて私達の日常の暮らしのすぐそこに、あるのですがそれは決して私達の溶け込むことはなく、『異界』として存在しています。ミルクホールを出て、踏み切りを横切り線路伝いに山の方へぶらぶら歩いていくと小さな横道に出会います。その小道はどんどん細く険しくなっていきますが、構わず登って行くと、そこは暗くいつも水が垂れてぬかるんでいます。その先が有名な『化粧坂(ケイザカ)』です。坂とは名ばかりで、大きな岩がごろごろと横たわり、人を通すまいとしているかのような難所です。ここを抜けると、その先は今では綺麗に整備された源氏山公園に出ることができます。『気と飛坂山上』とは鎌倉時代の商業地区を定める法令に残された名です。現在頼朝像のある源氏山上が、葛原が丘一帯を指す当時さかんに商売が行われた場所だと思われれます。また、化粧坂辺りの一帯では埋葬人骨が発見されています。中世都市鎌倉の住民たちは浜のほか周辺の山中にも死者を遺棄していたに違いない。商店街の賑わいと死者の共存、信じがたいような風景ですが、山中他界といわれるような考え方があったのでしょうか。「階などのように重々に、袋の中に物をいれたるように住まいたる」

正応2年(1289年)後深草院二条



LIVE 5/20 Sat. pm 7:30

5周年記念ライブ

ハーフムーンのライブで、

ハーフムーンによるミルクホールのライブは、早いもので今年の5月で5周年を迎えます。

MILK HALLのBAR TIMEをお楽しみください

by 琢磨 仁(Jin Takuma)

琢磨 啓子(Keiko Takuma)

HALF MOONの音楽は愛と平和を歌います。

<http://www.e-half-moon.com/>

和洋家具 古陶磁・古民芸 アンティーク

大戦を前に、暗く不安なはずだった昭和初期の暮らし。その暮らしは私達の想像とは違い、美しい日本の伝統が息づく、生き生きとした生活でした。

そして終戦、貧しくとも未来への希望にあふれた時代。その時代のなごりの品々が、私達に郷愁と暮らしの中のささやかな楽しさを語り伝えてくれています。

家具やランプシェード・アンティークな小物の類

そのほか、伊万里・明治の銅版・骨董類

ガラクタもあり 掘り出し物が一杯です

古陶磁

大正色絵各種新入荷 小皿 ¥300より

明治印判銅版大皿・小皿新入荷

古伊万里印判小皿新入荷

好評につき再度 入荷!

昭和20年代デッドストック四国砥部焼

鯨染付小皿・楕円皿など

伊万里7寸皿各種

伊万里青磁そば猪口・皿各種

明治九谷絵皿・猪口

信楽大壺・常滑大壺

李朝白磁・青磁



アンティーク

夢二戦前絵葉書額入り 新入荷!

¥33000

映画スチール写真各種新入荷

昭和お菓子ピン各種 新入荷

レプリカ照明器具各種

ランプシェード金具付 ¥6800より

昭和銀行貯金箱各種

キュービー人形各種

額絵・スタンドグラスなど



アクセサリ

昭和初期の眼鏡各種

アンティーク櫛かんざしセット各種

クリスタルプレスレット

色ガラス指輪・ネックレス・薔薇ピアス

アンティークビーズバッグなど



古民芸

透かし彫り欄間新入荷

¥5500より

衣桁新入荷 ¥4800

箱各種新入荷 ¥4500より

格子建具新入荷

すだれ各種新入荷

大正漆器各種

糸巻き

農機具など



古布・帯

明治藍染布団皮 新入荷

(90cm) ¥3000

裂き織帯各種 新入荷

名古屋帯各種 ¥3000より

珍品! 戦争中の兜柄から、

昭和初期のあでやかなもの

締めやすい現代ものなどなど

半幅帯 ¥2000より

端布色々 新入荷

楽しい端布が沢山入りました。

大き色々使い色々、

絞りや、紬、銘仙、モスリなど

少し前の日本の布地。

Milk Hall Times

ミルクホール開店1976年 30周年記念

ミルクホールタイムス 総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」発行

No.001 ~ No.100 ¥1800

1986年4月に創刊されたミルクホールタイムスの1thから100thまでの総集編です。掲載された色々な話、出来事などを編集しています。

「鎌倉の猫事情」第一話から始まります。CORUMN

や、ガラクタ通信、思い出深い落書きなど、

ミルクホール30年の思い出を辿ってみてください。

ミルクホール及び、鎌倉の書店にて販売中

ミルクホールのホームページでのお申し込みもできます。

